誰の責任？
「不公平なイスとりゲーム」から考えよう

めやす 90分

ねらい

- ワークショップを通して、貧困問題を社会構造の問題として実感する。
- 「自己責任」と「社会の責任」について考える。
- 貧困を生みださない社会の仕組みを考える。

キーワード

構造、特権、公正

準備物

- シート　必要な枚数　•「A」と書いた紙（いすに置く）
- プラカード　必要数 •ワークシート1～2　1人1枚
- ワークシート3　1グループ1枚 •資料1～5　1人1枚
- 模造紙各グループ1枚
- マーカーセット各グループ1セット　•イス　•CDデッキ
- 音楽　•ホワイトボードと専用ペン（黒板も可）

このプログラムには、進行役以外に、ルールを渡したりゲームの音を操作するスタッフがいることが望ましい。

プログラムの流れ

2分	①	導入	ねらい
8分	②	ウォーミングアップ	グループ分け、自己紹介
15分	③	不公平なイスとりゲーム	貧困の構造の疑似体験
40分	④	ゲームのふりかえり	
15分	⑤	カフカの階段	自己責任、社会の責任、公正な社会づくり
10分	⑥	まとめ	

時間	実際の詳細な手順	ポイント
スタート	**1 導入** 2分 今日は「不公平なイスとりゲーム」というワークショップを通して、「貧困の構造」を疑似体験してもらいます。そして、そこで感じたことや気づいたことをふりかえりながら、実際にわたしたちの社会の中で起こっている問題について考え、どうすればすべての人がもっと安心して暮らしていける社会になるのかを考えてみたいと思います。	• 会場はスペースに余裕のある場所を選ぶこと。 **会場の設営** • イスを輪になるように内向きに並べておき、参加者に座ってもらう。 • このプログラムを実践する上での参考図書として『反貧困学習』大阪府立西成高等学校著、2009年（平成21年）、解放出版社がある。

●「参加・尊重・時間・守秘」について説明し、板書する。

• ルール説明は、P69を参考にして伝えてもよい。

2分経過

2 ウォーミングアップ

8分

自分は今までの人生で「得してる」と思うことと「損してる」と思うことを比べると「得してる」割合は何%になるかを考えてみてください。グループ分けするために輪になって並んでもらうので、深刻に考えず、できれば何十何%という数字を直感的に思い描いてください。
では、他の参加者と自分は何%と言い合って、%の多い順に、このイスの内側にわたしのいるところから時計回りに輪になって並んでください。

●並び終わったら割合の最も高い人と低い人に簡単にインタビューする。

次に、割合の高い人から順に5人ずつのグループを作り、イスを移動して小さな輪になって座ってください。
割合の高い人のグループをAチーム、割合の低い人のグループをBチームとします。それでは、各グループで自己紹介をしてもらいます。Aチームのグループは「最近得したな」と思うことをBチームは「最近損したな」と思うことを紹介の中に入れて1人30秒でお願いします。

• AチームとBチームのグループ数は、だいたい同じぐらいが望ましい。どのグループがAチームでどのグループがBチームかをはっきりと示すこと。

10分経過

3 不公平なイスとりゲーム

15分

それでは「不公平なイスとりゲーム」を始めたいと思います。まずイスを外向きにして1つの輪をつくってください。イスとりゲームはみなさんも知っているとおり、イスの周りを回り、音楽が止まったらイスをとりあい座るというゲームです。ただし、AチームとBチームでは参加のルールが違います。Aチームの人はわたしのところにルールの説明文と首からぶら下げるプラカードをとりにきてください。Bチームの人は会場の後ろ側にいる人からルールの説明文をもらってください。ただし、ゲームに参加するのが難しい方は始めに申し出てください。

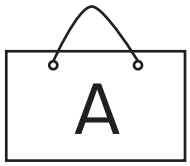
●A・Bチームの各人に配付物を渡し、ルールを説明する。配付物は、A(シート〈ルール〉・プラカード)、B(シート〈ルール〉)。

まず、Bチームの人はイスの周りに立ってください。次にAチームの人はBチームの人の間に入るように立ってください。

それではゲームをスタートします。

• イスは外向きに輪に並べる。イスの数は例えば参加人数が30人なら20席置く。(参加人数によってイスの数は増減させること。)
• 20席のうち6席(30%)にだけAと書いた紙をばらけるように座席におく。A(専用)席の数の割合によって座り方の結果に大きな差がでる。A席の数の割合を初めからあまり大きくしすぎないこと。

【プラカードの例】



誰がAかわかればよいので、名札などを使ってもよい。

• 参加困難との申し出があった場合、音楽係りなど違う役割でワークに参加してもらう。
• Aチームの人にはBチームの人に聞こえないようにどの席に座ってもいいことや秘密のルールを確認すること。

●音楽をかける。

「はい、みなさんイスの周りを回ってくださいよー」「みなさん頑張(がんば)って」「Bチーム頑張ってください」「Aチーム頑張ってください」

●秘密のルールどおりに音楽をストップする。

Aチームで座れなかった人はもう一度ゲームに参加できます。Bチームの人で座れなかった人は残念でした。もうゲームには参加できません。

●イスの数を15席に減らし、Aと書かれた席を5席にする。（Aの席の割合は33%とする。）

それではゲームを再開します。

●音楽をかける。

「Bチームの人、今度は頑張ってくださいよ」「Aチーム頑張ってください」

●秘密のルールどおりに音楽をストップする。

Aチームで初めて座れなかった人はもう一度だけゲームに参加できます。Bチームの人で座れなかった人は残念でした。もうゲームには参加できません。どんどんBチームの人は減っていますね。
Bチームで座れた人は不利な中でよく頑張っていますね。みなで拍手しましょう。次もぜひ頑張ってください。

●3度目は10席に対してA専用席は4席とする。（Aの席の割合は40%とする。）

これで最後のゲームとします。それではゲームを再開します。

●音楽をかける。

「Bチームの人で残っている人、まだ席は残っていますよ。頑張れば座れますよ」「Aチーム頑張ってください」

●秘密のルールどおりに音楽をストップする。

最後に座れた人はこのゲームの勝者です。おめでとうございます。どちらのチームの人が残りましたか。
それではゲームのふりかえりをするので、各グループで机を1つ出してその周りにグループごとに座ってください。

●机をグループの数だけ出し、進行役の横にはホワイトボードを出す。

- 秘密のルールに気づかれないようにいろんな声を全体にかけること。
- 進行役が音楽を止めてもいいが音楽係が進行役の合図を聞いて止めるほうがよい。
- ここでもBチームの人に秘密のルールが気づかれないようにいろんな声かけをすること。
- 机はグループに2本あると、後の活動がしやすくなる。

25分
経過

4 ゲームのふりかえり

40分

●1回目・2回目・3回目の全体の席の数と、A専用席の数をホワイトボードに書く。

●模造紙1枚とマーカーセットを各グループに配付する。

前のホワイトボードを見てください。イスの数はこのように減らしていきました。まず、ゲームの中で、どんなことが起こりましたか？　模造紙に黒のマーカーで書いてください。
また、そのときどんなことを感じたり、考えたりしましたか？　できごとの周りに黒と赤以外の色のマジックで各自5分間程度で書きこんでください。
次に、Bチームの人は何が不公平だと思いましたか？　Aチームの人は何が有利だと感じましたか？　5分程度グループで話し合って、赤のマーカーで書いてください。
それでは、Bチームのグループから話し合ったことを発表してください。

- 起こったできごとは模造紙の全体を使って書くように伝えること。

●グループの発表の中から出てきた意見を、簡潔にホワイトボードに書きとめる。

次に、Aチームのグループも発表してもらいます。実は、このゲームにはBチームの人にはまだ知らされていない秘密のルールがあります。

●先ほどと同様に、グループの中から出てきた意見をホワイトボードに書きとめる。

他のチームの人の発表を聞いてどう感じましたか？　不利なBチームの人はいろいろな「努力」をしても座れなくなっていき、Aチームの人は有利な条件の下で「余裕」をもって競争に参加していたといえますね。

- Bチームの発表について書きとめる際に、項目として「座れるイスと座れないイス」「再チャレンジの機会」を書き、そのときの参加者の気持ちも書き込んでいく。
- Aチームの発表の際に、「情報」の項目を付け加える。
- 他のチームの意見について感じたことを何人かにインタビューするとよい。

●ワークシート1を1人1枚配付する。

ではまず、「イス」について考えてもらいます。ワークシート1に従って、「イス」が社会で何を象徴しているかを各グループで5分程度話し合ってください。

- 「イス」についてさまざまな意見が出るが、どの意見も尊重すること。

●各グループの意見を発表してもらう。

「イス」が仕事や雇用を象徴していると考えてみると、A専用のイスはあるレベル以上の技術や知識をもっていないと就けない仕事と考えることができます。イスが減るごとに、全体のイスの中に占めるA専用席の割合が大きくなるようにしました。これは経済がグローバル化した中で、国内の製造業が生産拠点を人件費の安い海外に移転していることを示しました。

●ワークシート2を1人1枚配付する。

次に「社会におけるチーム分け」について考えてもらいます。まず、社会ではどんな人たちが「不利なBチーム」に入ると思いますか？　5分程度話し合ってください。

●各グループの意見を発表してもらい、ホワイトボードに書きとめる。

わたしたちの社会には実際に様々な要因で不利なチームに入らざるを得ない人たちがいます。2008年(平成20年)に起きた世界金融危機以後、日本では多くの非正規労働者が解雇される「派遣切り」がなされました。
イスが一度に減ってしまい、多数の製造業の派遣労働者等が仕事を失い、そして住むところさえなくしてしまった人もいました。
ワークシート2の自己責任VS社会責任の上の表のカッコに「非正規労働者」と書いて、その人たちが不利なチームに入った「自己責任」の部分と「社会の責任」の点を出し合って書いてください。

●各グループの意見を発表してもらい、ホワイトボードに書きとめる。

●資料1・2を1人1枚配付し、しばらく個人で読んでもらう。

資料から読みとれることは、労働者全体に占める非正規雇用者の割合が増加傾向にあり、特に若者と女性に顕著(けんちょ)であることです。2009年(平成21年)は「派遣切り」により失業率が増加し、非正規雇用の仕事にさえ就けなくなっていることです。
体験したイスとりゲームについて思い出してください。不利なチームに入った人は、有利なチームに入った人以上に考えて行動しようとしても「ゲームの仕組み」でイスに座ることができなくなりました。「社会の責任」を問題視せずに「努力が足りないからだ」と「自己責任」だけを当事者に押し付けていては、誰もが安心して暮らしていける社会にはならないのではないでしょうか。

●ワークシート2の下の表を空白にしておくので他の不利なチームに入る人たちについても各自で考えていってほしいと伝える。

65分経過

5 カフカの階段

15分

●ワークシート3を各グループに1枚配付する。

次に考えてもらうのは「野宿者ネットワーク」の生田武志(いくたたけし)さんが考えられた「カフカの階段」というものです。まず、資料3を読んでください。そして、左側のどんなことが重なると人は「ホームレス」の状態になってしまうかをグループで考えて(　　)の中にあてはまるできごとを書いてください。時間は5分程度でお願いします。

●各グループの意見を発表してもらい、ホワイトボードに書きとめる。

●例を紹介する
失業・病気・雇用保険(失業保険)切れ・貯金切れ・家賃滞納・頼れる人がいなくなった。

- 出てきた項目について、不利な点について簡単なコメントをすることが望ましい。
- グループで話し合っている際に当事者が自分の思いを話しているときは話が一段落するのを待ち、具体的な事例については次のワークで話し合うことを伝える。
- 1986年(昭和61年)に成立した労働者派遣法は対象を当初の16業務から2004年(平成16年)には製造業にまで拡げられたことを背景として押さえておくこと。
- 資料3はビッグイシュー基金による『若者ホームレス』50人へのインタビューから作成したものである。ネットカフェなどで暮らしている状態も含めて「ホームレス」と定義している。
- (　　)の中が出にくい場合は、左記の例や資料4「カフカの階段」の解説を参考に伝えるとよい。

次に右側のカッコの部分、いったん「ホームレス」になった人にはどんな「壁」が存在するかを5分間でグループで考えて、(　　)の中に書いてください。

●各グループの意見を発表してもらい、ホワイトボードに書きとめる。

●例を紹介する
住所がないとハローワークで仕事を探せない・面接に着ていく服がない・敷金・礼金が払えない・一月先の給料までしのげない・会社が相手にしてくれない

一段一段落ちて「ホームレスの状態」に至った人は、元の生活に復帰するためには幾つかの条件を一気にクリアしなければなりません。自力では事実上、復帰不可能となっているのです。「社会の責任」とは、階段から落ちても受け止めるようなセーフティネットをつくることや、「壁」にステップをつくり、再び人間らしい生活に戻ることができるような仕組みをつくることではないでしょうか。

●資料4を1人1枚配付する。

80分経過

6 まとめ

10分

ワークシート3のカフカの階段の上では、「イスとりゲーム」が行われています。例えすべての参加者が公平に「イスとりゲーム」に参加できたとしてもイスの数が減らされていけばいくら参加者が頑張っても誰かが座れなくなります。イスの数を増やしたり、イスを分け合ったりするような「社会の仕組み」が必要なのです。最後に、参加者の皆さんがこのワークショップを通して感じたことを1人1分でグループのメンバーに話してください。

●コラムを配付する。

- (　　)の中が出にくい場合は、右記の例や資料4「カフカの階段」の解説を参考に伝えるとよい。
- 資料3・4の内容も参考にして、「カフカの階段」のまとめを伝えるとよい。
- コラムを参考にしながらまとめを伝えるとよい。